

三戸ありて、一戸は魚屋なり。といへり。今右の舊説・傳話等に據りて、尙之を搜索するに、今百姓町慶覺寺の向うなる通りの裏町に、石浦屋久兵衛とて百姓名前の者一人残り。此のもの従前は八石二斗の地を持来りしかど、天保十四年の頃右持高をば笠舞村へ賣渡し、其の身は金澤町會所の支配と成り、全く金澤一般の町人とは成りたり。故に石浦村百姓名の者此の時より全く斷絶すといへり。おもふに、今金澤市中に石浦屋某と呼べるもの甚だ多し。是皆いにしへ石浦村の百姓なりしが、追々郡地より送籍して、金澤町會所支配の町人と成れる者の子孫にて、彼の村地追々町地と成り、耕田の地減少するに隨ひ、其の農民は工・商等になり、町人とは成りたるなるべし。されば百姓町の地は、いにしへ石浦町の村跡にて、村民共の邸跡なるを以て、百姓町とは呼べるならん。

○洲崎山慶覺寺

東派眞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。文明年中慶覺坊石川郡米泉村に在住、夫より數代同所に罷在處、寛永十三年百姓町今之地へ移轉仕云々。と。三州志變遷餘考に云ふ。慶

なる彌陀の像も、行基の作といひ傳ふるものにして、伏見寺の藥師像と同作ならんか。但し佛像などの事は、其の寺院の傳説も證とするに足らず。

○洲崎泉入道慶坊傳

加賀古跡考に云ふ。昔長享年間洲崎泉入道慶覺といふ一揆大將、並に一族兵庫十郎左衛門・孫四郎等、石川郡泉村の邊なる村に居住す。其の館跡は何れの地とも知れざれども、今米泉村に兵庫の塚といふあり。此の邊増泉・米泉など、何れも皆一族の居住所なるべしといへり。龜尾記に、米泉村に洲崎泉入道慶覺坊の古墳あり。村中宇駒坂といふ所にあり。古松ありしかども近年立枯れと成る。といへり。按ずるに、泉入道が居館は米泉村にあり。飛耳襟録に、昔當國尾山の城本源寺の家老松田次郎左衛門は、河北郡の棟梁として小立野寶幢寺坂を城郭となし、尾山城の押へに蟠居す。其頃河南米泉郷に洲崎兵庫と云ふ者あり。石川郡の押領使として、數年本源寺と威を争ひ、折を伺ひ河北を襲ひ取り、人と巧み謀る事歳久し。然るに松田と和睦し、次郎左衛門を米泉の館へ招き、酒宴中に次郎左衛門を討取り、

覺坊はもと江州の者にて、洲崎兵庫と云ひ、僧蓮如の弟子となり。加州河北郡松根堡に住し、森下・柳橋・小坂・大樋邊まで押領す。又石川郡米泉に移住し、西泉・泉野の三泉を領分とし、御山の本源寺と威權を争ふ。故に泉入道と潜號す。高尾の城陥るの後、一道場を米泉に構へ、蓮如より授與せし行基の彌陀像を安置す。此の道場數十年の後寛永年中に金澤百姓町へ移す。今の慶覺寺是也と。又或は云ふ。慶覺寺の本尊阿彌陀如來は、芋掘藤五郎石川郡山科村に居住し、黄金を以て藥師・彌陀の兩像を鑄たり。藥師の像は今寺町伏見寺の本尊是なり。彌陀の像は今百姓町慶覺寺の本尊と成れり。此の兩像は、則ち芋掘藤五郎の守本尊にて、慶覺寺の本尊は閻浮檀金長々四寸の彌陀佛なりといへり。按ずるに、右蓮如より授與ありし行基作の彌陀佛と同佛像ならんか。伏見寺由來書に、養老元年石川郡伏見山にて芋掘藤五郎黄金一寸八分の藥師佛を掘出し、草庵を建て安置す。其頃行基伏見山に登り、藤五郎の掘出す黄金を以て七寸三分の藥師を作り、彼像を籠め一寺を建立して、行基山伏見寺と號す。とあり。此の傳説に據れば、慶覺寺の本尊

夫より彼居城等へ又軍を向け、松田が甥石浦主水の居城石浦砦等を不日に攻落す云々。といへり。又津田鳳卿の石川訪古遊記に云ふ。木曾義仲營蹟在米泉村東。永祿・天正之間。土賊首領洲崎兵庫據其墟。四圍堡壘尙存。高七・八尺。東西廣七十步許。南北袤九十步弱。八十步。塹壕今淤。僅可棲蛙。寛永初。十郡皆置作食倉數十百所。爲春耕賑救料。天明中土民懷奸。納粟穀做米包。不藏實米。有名無實。故墮倉と。今按ずるに、三州志に、慶覺坊は洲崎兵庫とて、蓮如の弟子と成り、初め河北郡松根堡に居て、森下邊を押領し、後石川郡米泉の館に居て、西泉・泉野の三泉を押領し、みづから泉入道と潜號す。それを後人附會して、和泉守と記し誤れり。といへり。關屋政春の古兵談に、須崎兵庫といふ一揆大將は、越後謙信一萬餘騎にて、十月の頃なるに加州へ發向して、河北郡の内中條村・太田村に陣取りたり。其の日大雪降り、人々中條・太田の在家に込入りて、寒氣を防ぎけり。夜に入りて須崎兵庫八百許にて山手へ廻り、夜軍を懸けたり。謙信一支もあはず討負け、越後へ敗軍す。其後吾が藩祖高德公、右の手柄を聞召し、知行千石賜はり、